

前奨連

前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元気21
3階

☎(027) 210-2198

会報「前奨連」二〇〇号に寄せて

広報委員長 持田 みね子

生涯学習奨励員制度は昭和六十一年十二月にはじまり、その四年後の平成二年に会報「前奨連」の創刊号が発行されました。

三十四年の間、前橋市内の奨励員の皆様に読まれ続け、今年の八月号で一〇〇号を数えました。

創刊号の巻頭言は、元前奨連会長の関左団次氏が執筆され、会報の意義や想いが書かれておりました。その一つに「奨励員が緊密に連絡連携し、情報や資料の交換を行い、学習活動の質向上を図る」との言葉があり、改めて会報の意義や大切さを感じます。

その後、巻頭言には教育長や市長などから生涯学習の意義や本市の情報、また、第一線で活躍されている人の啓発的なものや、体験的なものなど、一〇〇人の方の言葉が綴られています。また、前奨連事業のお知らせや報告などです。二面三面には、各町の活動の様子や地域の活動が紹介

されています。会員にとって、励みや参考になることはもちろんですが、全奨励員が集うことはなかなかありません。でも、このような紙面を通じて、共感し仲間意識が持て、つながりをつくることができます。まさしく、紙面交流の場となるわけです。会報「前奨連」は



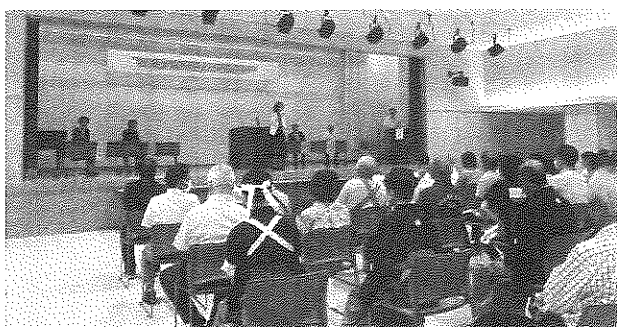
(故) 島田兼之氏、(故) 加藤鶴男氏、大井常利会長、が編集を担当し、趣旨や意義を忠実に守り、現在に受け継がれてきました。

会報が発行された平成二年は、生涯学習フェスティバルとわがまち広報紙まつりの第一回が開催され、現在に至っています。広報紙は町内の紙面交流として住民の様子や町の活動、歴史等を紹介掲載し、住民と情報を共有することが使命です。広報紙を通じて、自分の住んでいるところ

ろを知ることが、町づくりの一步になると考えています。

私もこれまで奨励員活動の一環として広報紙づくりを推進してきました。広報紙まつりは、発行を推進するとともに、他の町の広報紙を見る

生涯学習フェスティバル2024



開会式

令和六年八月三十一日(土) 前橋プラザ元気21で開催されました。

「来て」「見て」「体験」をテーマに係団体と協働し、ホールとホワイエに様々なコーナーが開設されました。コロナ禍の影響で三回の中止を余儀なくされた以外は毎年実施されてきました。開催にあたり、多くの人々の来場を願って、楽しい学習情報など、多彩なイベントを企画し、会場配置も工夫したところ。新型コロナウイルスも移

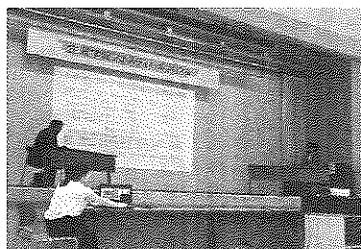
ことで、読まれる広報紙づくりとして大いに参考になっています。

会報も活動を知る一つとして、これからの大切に受け継がれてゆくこととしましょう。

行され、行動制限が緩和されることで、ステージでは中央公民館学習団体の活動発表がありました。また、世界ではウクライナ侵攻をはじめ、いくつもの国で武力紛争が起きています。そのような背景の中、特別対談「平和の願い」鈴木貫太郎の生涯」をテーマとし、前橋鈴木貫太郎顕彰会会長の腰高博氏と、同じく理事の手島仁氏による対談が行われました。

鈴木貫太郎は、日本の海軍軍人、政治家で最終階級は海軍大将でした。第四十二代内閣総理大臣です。海軍大学卒業後、日清戦争後連合艦隊司令長官・軍令部長等を歴任、枢密院議長を経て、昭和二十年に組閣し、太平洋戦争の終結を図りました。なかなかこのような話を聴く機会はないようので、参加者から

は「おもしろかった」「これを機会に知ることが出来てよかった」などの感想がありました。(P4に続く)



特別対談

地区だより

④9

地域の特性を生かした活動をつくる

南橋地区・青柳町奨励員

宗 義彦

南橋地区は、一級河川の利根川、桃の木川、赤城白川が流れており、特に桃の木川と赤城白川は、地域の自然保護活動の会の皆様の努力のおかげでホタル・アオハダトンボ・ハグロトンボ・イトトンボなどが飛び交い、冬は敷島公園など冬の野鳥の多く集まる自然豊かな地域です。南橋地区は、十四町で構成されており、近年田口町の上武国道脇に道の駅「まえばし赤城」ができ、休日には上武国道に渋滞が発生するようになり、地域の環境も大きく変貌しました。

南橋奨励員の活動と現況

奨励員会として南橋公民館の主催する行事（のびゆくこどものつどい・文化祭等）に積極的に参加協力し、地区の青少年健全育成会の主催する事業にも参加して、長年にわたり田口町に

ある「冒険遊び場」で、地域の子供たちに遊び・工作・野外学習などの指導を行って参りました。近年はコロナや猛暑日の影響で中止となり、二年前より再開しましたが、参加する子供たちが少なくなり、今後継続すべきか中止すべきかの岐路に立たされています。

各町の奨励員は、独自に各町の特性を生かした方法で活躍をされています。自治会や育成会・老人会との連携による各町の文化・伝統芸能の継承、町内の歴史散歩や郷土の文化や史跡をカルタにしてカルタ大会の開催、町内親睦旅行、自然観察会、遊休畑を活用してソバを栽培収穫し、ソバ打ち教室を実施するなど、さまざまな活動を行っています。

コロナの影響で人とのつながりが希薄になり、こどもたちも野外での運動や遊びをしなくなりつつあり、どのような社会になるのか心配です。奨励員として、地域の特性を生かした魅力ある地域づくりのため、自治会や各種団体との交流を図り、情報共有や地域の絆をつなぐ活動に積極的に参加支援・協力したいと考えています。

生涯学習奨励員。いま、わが町で

コロナの後遺症未だに

旧二中地区・城東町四丁目奨励員

茂木 勝彦

「奨励員とは？」と考えつつ十数年が過ぎてしまいました。町の活動主体は、自治会をはじめとする各種団体であり、奨励員は、その企画・実施のサポート・コーディネートが役割かと心得ています。

町の行事は、既に九十六号に記載の通りですし、その大半がコロナ禍で中止せざるを得なかったのですが、その間に高齢者の物故、あるいは、施設入所される等、年齢構成も変化し、様々な取り組みに支障が出ています。

一方、夏の最大行事「納涼祭」。これは、昨年から再開することが出来ました。町を挙げての取り組みで、他町から訪れる人も多く、大変な賑わいを見せます。また、前橋まつり協賛「城四まつり」も復活。昨年から山車の中心街運行も実現し、城東三丁目の子ども達を『お雛子連』に正式に受入れ、一層賑やかに開催し、町内間の交流・融和を深めることが出来ました。

ふれあいいきいきサロンは、コロナ禍で一年半程休まざるを得なかったのですが、再開後は担い手の努力により、内容が進化・充実しています。しかし、如何せん肝心の参加者が冒頭記したよ

うな状況で減少していますので、この対策も考えているところです。

年が明けると三月には、「新入学児童お祝い会」の時期になりますが、ここ三年は記念品配布に留まっています。自治会および各種団体により開かれるのですが、こども達が中学生・高校生になってからも町の行事に参加・サポートをしてくれるのもこの催しが原点になっていると思っています。来春は、何とか開催できるよう関係方面と調整を重ねています。

何れにしても変化の大きい時代、乗り遅れないよう精々努力をしていきたいと思う昨今です。

町内活動は人のつながりづくり

下川淵地区・横手町奨励員

入江 弥生

横手町は、ここ数年若い方々の新規入居が増え、住民の数が倍増しました。それと共に、高齢化も進んでいます。

横手町では、「自主防災支え合い会」での一人暮らしの避難訓練「生演奏による音楽とお話を聞く会」「子育てと介護」「風水害24」など、多種多様な独自の催しを行いました。具体的に紹介します。

令和五年九月二日(土) 横手町

七十五才以上一人暮らしの避難訓練。一人暮らしの老人約一〇人が三班に分かれ、事前に訓練の件は家族に連絡し、了解を得て車で避難し、七中まで往復。約一時間を要しました。

令和五年十一月二十六日(日)「生演奏による音楽とお話を聞く会」。横手町在住の演奏家による生演奏を下

宅地の課題に 取り組む地域のつながり

総社地区・総社町城川奨励員

武藤 孝

城川は「歴史の町総社」にあつては、歴史の浅い新興住宅地です。ここはかつて、総社城とその家臣の住居だったあたり。秋元氏の転封以降、無人の地域となっていました。

それが昭和五〇年前後にはいると、高度経済成長にともない、総社に工業団地がつくられ、人口急増に対応して、これまで農地だったこの地区に少しずつ居住者が増えてきました。県の住宅供給公社による分譲地開発がきっかけで、住宅開発に拍車がかかり、栗島地区から分離独立する形で生まれたのが城川地区です。

城川地区は、昭和五〇年前後に住宅化し、各地から各々移り住んだ住民からなる町です。その中核の

川淵公民館ホールで約一時間半。クラシックやディズニー音楽など、子供から大人まで楽しめる楽曲で、一〇〇人以上集まり、小さなこどもも静かに聞き、すばらしい時間を共有できました。

令和六年二月二十五日(日)「子育てと介護」について、実際に在宅介護サービスを行っている介護福祉士

世代が、今では八〇歳前後となり、他の地区と比べても高齢者の比率が高い町になっていきます。空き家も目立つようになってきました。

今春、町社協を立ち上げ、地域課題に取り組むようになりました。新規の住民の流入もあり、活気も生まれてきました。世代間交流にも取り組んでいます。「公民館を住民のよりどころとしよう」を合言葉に、毎日午前中に公民館で、誰でも立ち寄って活動に参加できるように取り組んでいます。カラオケや映画の上映、脳トレやテレビゲームなど、さまざまな活動を行います。住民同士の連携を促しています。今年初めて地区文化祭を開催し、多くの皆さんの出品と来場がありました。また、こども時代を過ごした元住民の祭りや各種行事に参加することによって、活性化にも取り組んでいます。

わが町の生涯教育

大胡地区・堀越町堀下奨励員

前原 則夫

わが町は、大胡地区中心部の大胡支所、大胡小中学校の西南に位置し、約七〇〇世帯の自治会です。古くは大胡城主牧野氏ゆかりの藩校等が置かれ、近くの菩提寺養林寺や地区内や近隣に多くの寺があったことから伝統ある催事も多く催されています。

しかし、近年、高齢化が進み、特に大胡地区中心部では若年層が極端に少なくなっていることから、祭事や伝統行事等の自治会行事・生涯教育に関する行事への参加者も少ない状況です。このため、自治会や自治会役員、自治会役員経験者を中心に、地区の皆さんに積極的な参加をお願いしながら活動を行っています。

した。

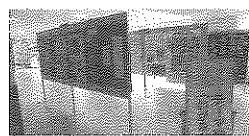
令和六年九月十五日(日)「風水害24」。講師は社会福祉協議会、鈴木伸明氏の講師約二時間半。大規模風水害の接近から直撃、通過までの二十四時間を疑似体験できるゲーム、ハザードマップの活用、声かけや一緒に逃げる仕組みの重要性等を感じ、非常に有意義なゲームでした。

いろいろな生涯教育事業

祭事として、八坂神社祭典と同時に地区の獅子頭を祀る祭典、薬師堂に安置されている前橋市文化財である仏像群の薬師如来、十二神将の御開帳を行い、夏の納涼祭として薬師様祭典、十二様祭典、石尊様祭典、阿弥陀様祭典、地区住民の無病息災を願う「どんど焼き」を行っています。

地区住民の交流事業としては、社会福祉事業の町社協と協力して、いきいきサロン、グランドゴルフ、ゴルフ愛好会の親睦ゴルフ、また、地区内文化祭、工作教室として「しめ縄作り」を行い、地区の行事予定・結果やいろいろな情報をお知らせするために、年六回隔月に広報紙として「ほりしもだより」を発行しています。

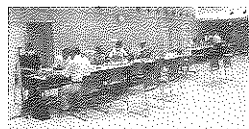
以上の各種の事業を通して、地区住民の交流・情報交換、生涯教育の一助となるよう活動しています。



テーマ展示「わがまち紹介」



わがまち広報誌まつり



昔あそび・リサイクル

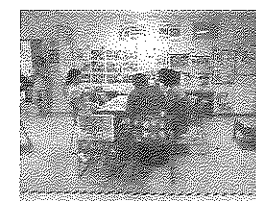
ホワイエの「わが町紹介」のコーナーでは、各地区町内の自慢や活動の様子、地域や町の位置などの展示がありました。この展示は、地域で事前に作成されたもので、奨励員があらためて活動や町を振り返る良い機会でした。所狭しと飾られたパネルは、それぞれの特長が出て来場者は興味深く見ていました。



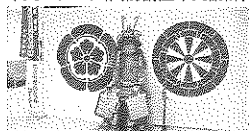
その隣のコーナーは、「わが町広報紙まつり」の展示でした。全地区から発行されている最新版をボードに貼り、広報紙づくりワンポイントレッスンで大井会長がレクチャーし、これから作るところも、現在発行しているところも大いに参考になる話でした。



前橋市読み聞かせ連絡協議会



前橋市手をつなぐ育成会



総社秋元公歴史まつり



国立赤城青少年交流の家

また、こども達の来場も視野に入れた、読み聞かせコーナーやリサイクル工作ひろばでは、親子連れでにぎわいました。読み聞かせコーナーは部屋を特別に設けたことで、観客がきてくれるのだろうかとの心配もありましたが、上手くPRし、スタンブラリーのおかげもあり、にぎわいを見せていました。

廊下には、甲冑を着たこどもや、きつ

ブロック別実践研究会 恒例の生涯学習実践研究発表会 実施日程

ブロック名 会場	地区名 コーディネーター	実施日時
第1ブロック 中央公民館	一中 旧二中 三中 旧四中 五中 旧四中地区理事：関 壽夫	R6.12.4(水) 午後1時30分～
第2ブロック 下川淵公民館	上川淵 下川淵 永明 下川淵地区理事：持田 みね子	R6.12.9(月) 午後1時30分～
第3ブロック 元総社公民館	東 元総社 総社 清里 前奨連会長(総社地区理事)：大井 常利	R6.12.4(水) 午後1時30分～
第4ブロック 南橋公民館	芳賀 南橋 富士見 前奨連監事(芳賀地区理事)：中山 洋子	R6.12.10(火) 午後1時30分～
第5ブロック 大胡公民館	桂萱 城南 大胡 宮城 粕川 前奨連副会長(大胡地区理事)：笠原 弘	R6.12.20(金) 午後2時00分～

テーマ「身近な学びでまちづくり」
地域づくりの中心を担う自治会長、生涯学習奨励員の参加により、地域づくりや生涯学習の重要性を再認識し今後の地域活動に活かす機会にするためにブロックごとに次の日程で開催されました。

前橋市生涯学習 実践研究会

でしようか。ホワイエの展示以外は、一日開催でした。
生涯学習フェスティバルが実施されて三十四年経ち社会も人も変わる中で、生涯学習フェスティバルも過渡期にきているのかもしれない。

あゆみ(8月～12月)

Ⅱ主要事項

このフェスティバルの目的を実効性のあるものにしていくためには、多くの地域の奨励員みなさまのご意見が必要かと思ひます。ともに作るフェスティバルを目指しましょう。
(広報委員長 持田 みね子)

- 8・19 ■第3回理事会▼フェスティバルの開催計画・内容確認
- 8・20 ■会報第100号発行
- 8・30 ■生涯学習フェスティバル2024会場準備作業
- 8・31 ■生涯学習フェスティバル前奨連関係Ⅱわが町広報紙まつり、テーマ展示、その他
- 11・18 ■第5回理事会▼フェスティバルの総括▼生涯学習実践研究会開催計画▼前奨連セミナー開催計画他
- 12・4 ■生涯学習実践研究会▼第一ブロック(一中、旧二中、三中、旧四中、五中) 会場 中央公民館
- ▼第三ブロック(東、元総社、総社、清里) 会場 元総社公民館
- 12・9 ■生涯学習実践研究会▼第二ブロック(上川淵、下川淵、永明) 会場 下川淵公民館
- 12・10 ■生涯学習実践研究会▼第四ブロック(芳賀、南橋、富士見) 会場 南橋公民館
- 12・20 ■生涯学習実践研究会▼第五ブロック(桂萱、城南、大胡、宮城、粕川) 会場 大胡公民館